

団長の心のものさし

レコーディング
と
ライブ

録音に残すということ

うたおにはかつて、レコーディングに力を入れていた時期があった。

『うたおにクリスマス』CDはその代表だろう。『21世紀の合唱名曲選』なる集大成アルバムに参加したこともあった。その後、調子付き、唱歌やポップスなどをレコーディングしたが、お蔵入りとなっている。

そもそもうたおにはコンクールと音楽会という二本柱で活動し続けてきた合唱団だ。いわばライブ派だ。

ライブは、目の前に聴衆が居るため気分が高揚する。それが演奏に熱さを注ぎ込んでくれる。ところがレコーディングでは、それらの環境は全くない。いうなれば、演奏者の孤独感みたいなものとの戦いだ。ミスも気になる。

おそらく、うたおにのメンバーのほとんどがライブを好むだろう。しかし、立場が変わると、記録に残すという作業はことのほか重要視され

るものだ。今回は、依頼を受け校歌を録音するという事だから、良いも悪いもない。好きも嫌いもない。だから深く考えることはないだろう。

もし、何かテーマを持った録音物を制作したいということになればどうだろう？「レコーディングは好まない」「やっぱり音楽はライブじゃないと！」といった声が聞こえてくるだろう。



不特定多数に作品紹介が出来る録音物制作は貴重

録音物は、不特定多数の人を対象に出来るメリットがある。とりわけ合唱のCDは少ない。楽譜はあっても音がないといったケースは多いのである。優れた演奏であろうがそうでなかろうが、全体像のつかめる、その手がかりとなる演奏物があることは助かる。また、その作品の演奏機会を生むだろう。

ライブレコーディングという折中案もあり、多くの場合、このケースを使っている。一石二鳥というわけだ。僕はそれもありだが、ここでいう録音物は、あくまでも録音することを目的とした演奏でありたいということだ。ライブで録音を想定した演奏はしたくない。それはあくまでも“記録”にすぎない。ライブ演奏がたまたま収録された記録物という感じ。

本当に完成度の高い録音を残したいと、常々考えている。愛読書を何度も読み返す読書家が居るように、私たちの録音物を何度も何度も聴き返してくれるリスナーが生まれて、そして本当に合唱を気に入ってくれて、いつも応援をしてくれるファンを作れないものだろうか。

たくさんのアイデアがある。そのいくつかでも実現したいものだ。



集中力が決めるレコーディング。緊張感が漂う。

うたおにの6月10日(木)の様子

練習内容
三重県立飯南女子高等学校校歌
「Mass From Two Worlds」より
Gloria

3月に行った校歌レコーディングの内、飯南女子高校校歌のみを再録音した。その後、合唱祭の作品を練習。本日は、県文の第1リ八室を使用した。

通常練習ではアップライトピアノなので、なかなかピアノとのバランスが取り難い。部屋の環境も異なるが、こうした練習は折に触れ入れていきたいものだ。